



発行 白子川源流・水辺の会
代表 菅沢 博
(03-3923-8430)
事務局 練馬区東大泉 6-36-4-301
副代表 本田 純
(03-3924-9181)

題字 宮本 沙海

編集 渋谷 瞭司

白子川紀行 最終回 井頭公園その2

スケッチ 萩原和雄 文 東谷 篤

■この会が出来て、満6年になった。毎月第4日曜の午後、私たちはこの井頭公園に集まっては、水質検査や川掃除をしてきた。その回数はざっと70回を越える。その度に私たちは、ここから湧き出した水やここに生きる生き物たちのゆくえ、そしてここに生きる私たち自身のくらしを想ってきた。「みんなの白子川」。そのすべては、ここ井頭公園から始まっていた。■この「白子川紀行」は3年前に「マルバヤナギ」から始まって、「ハの釜」まで下り、再びこの井頭公園に戻ってきた。途中、かつて大泉にあった水田の跡をたどり、西武鉄道の歴史を見、牧場で生きるひとの姿に触れ、幻となった「大泉学園町」を想い、撮影所の昔に驚き、そして消えていくひとつの湧き水の姿にため息を吐いた。それは、白子川の歴史をたどる紀行とも言えるし、〈いま・ここ〉を超える試みということもできる。■萩原さんはこの連載のために、白子川を描き続けてきた。ここに載ったものはそのごく一部に過ぎない。ちかくそれらのスケッチは絵葉書となって、皆さんのお手元に届く日がくる。さらに白子川が、みんなの身近な存在になるに違いないことを願って。(了)



練馬まちづくりセンターの助成金が決定

菅沢 博

練馬まちづくりセンターの19年度助成金の公開審査会が、7月29日、勤労福祉会館1階ホールで開かれました。公開審査会には15団体が応募し、当会も

昨年に引き続き応募し審査を受けました。その結果当会は、申請額30万円に対して17万円(昨年度15万円)が認められました。

★「練馬まちづくりセンター」とは

(財)練馬区都市整備公社・練馬まちづくりセンターは、練馬区民が住み続けたいと思えるような美しい地域環境と豊かな地域社会を実現するために、区民のまちづくり活動を支援するとともに、区民・事業者・行政から独立し連携を図る、中間的な立場からの協働型まちづくり事業を実践している。

第7回定期総会の報告

渋谷 瞭司

6月17日午後、勤労福祉会館1階ホールで、第7回「白子川源流・水辺の会」総会が開催されました。昨年度の行事や収集データの説明、各種活動報告、今年度の活動方針案等が協議されました。

1. 2006年度活動報告

- (1) 水質・水量調査の結果と傾向
- (2) 小学校総合学習への協力
- (3) 第6回源流まつり
- (4) 他団体との交流
 - ① 新河岸川水系水環境連絡会
 - ② 白子川と流域の水環境を良くする会
- (5) 2006年度活動('06/5~'07/6)日誌

2. 2006年度会計報告

3. 2007年度活動方針(案)

- (1) 定例活動(毎月第4日曜日)
- (2) 竹炭作り
- (3) 近隣小学校の総合学習への協力
- (4) 雨水浸透柵の普及、緑地、農地の保全
下水道の改善のために、PR、請願、他地区での事例学習
- (5) 聞き取り調査(白子川の原風景、川を巡る文化の検証)

(6) 第7回白子川源流まつりの開催

実行委員形式で、広く地域に呼び掛けて実施

(7) 「白子川源流はがき」の作成と販売

(8) 「白子川副読本」の編集の開始と、発刊費用の準備金の積み立てを始める

(9) 公園内に白子川解説板設置を区へ要望

(10) 白子川への案内板製作と配布

(11) 他団体との交流、協力

(12) 会報の発行(8, 11, 2, 5月: 1000部目標)

会員以外にも川沿いの各戸、公立学校関係機関、他団体、議会各派等に配布

(13) ホームページの運営

(14) 4/10を「浸透の日」と定め、その日を含む週を「道路マス清掃週間」とする

(15) 練馬区「練馬みどりの機構」に団体加盟する(継続)

(16) 井戸調査の準備

井戸の所有者調べと調査協力の依頼

4. 2007年度予算案、役員案

— 以上 —

7月21日(土)19:00から、第1回運営会議が東大泉地域集会所で行われ、第7回源流まつり開催、21号源流通信発行、行政との懇談会企画の他、新企画として、竹炭作り、白子川副読本作り、白子川絵葉書作りと販売、年内行事等について検討しました。

1. 第7回「白子川源流まつり」開催について

実行委員長 菅沢

- ①開催日は10月14日(日曜日)とする。(総会で10/21と発表したが変更した)
- ②第1回目の実行委員会は、8月18日(土) 14:00~16:00
- ③各自、提案を用意すること。

2. 21号「白子川源流通信」について

担当 渋谷

- ①発行予定日 8月末
- ②内容 ・表紙 : 絵・・萩原さん、 文・・東谷(篤)さん
・定期総会報告 ・源流まつりPR ・春日町環境講座報告
・年内スケジュール ・練馬区助成金審査結果報告
・「こんなことあんなこと」投稿記事大募集
活動に参加できない会員に、会報に登場してもらう

3. 行政との懇談会について

担当 菅沢

- ①内容は議案書を参考に、練馬区の環境保全課に相談する。
- ②日取りは、出来るだけ多くの会員が参加出来るよう、土・日曜日にしてもらえよう交渉する。

4. 新企画 竹炭作りについて

担当 永井

- ①みどり広場の竹林の間引きした竹を利用して、白子川の水質浄化に役立てたい。
- ②作り方は、よその事例を参考にする。
- ③時期は、年明け頃を目標としたい。

5. 新企画 「白子川副読本」作りについて

担当 東谷(篤)

- ①本の目的を予め明確にする。(小学校等での使用、等)
- ②今年は第一期として資料の収集等を中心とする。

6. 新企画 「白子川絵葉書」作りについて

担当 萩原

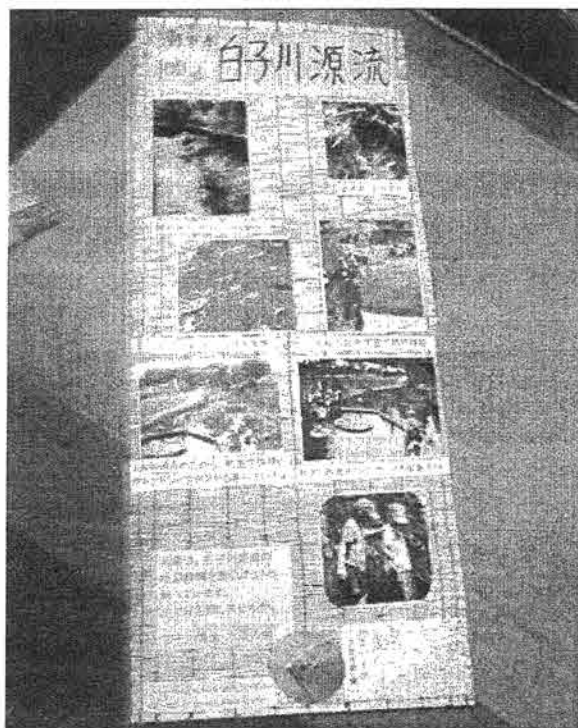
絵柄の選定、1組の枚数、種類、価格、販売時期等を今後詰めていく。

「環境月間行事」に展示参加

菅沢 博

練馬区では今年も6月の環境月間に、環境問題を広く区民に理解してもらおうと、6月9(土)、10(日)に近くの勤労福祉会館で「環境月間行事」を開催し、当会はポスターだけで参加しました。

今回は、東谷貞子さんの記録写真の中から7枚を選び涼味たっぷりの『すだれポスター』で源流を紹介しました。



7/29大雨直後の源流部の光景

本田 純

大雨による増水直後の源流の状況を記録したいと思っていた矢先、ちょうど、練馬区まちづくり助成金の審査会の途中から雷雨が始まったので中座して撮影に行った時は、激しい雷雨が通り過ぎようとしている頃でした。

画像は、源流部では下水流入のピークが過ぎたと

ころの画像です。ピーク時はこの画像より4~50センチは水位が上がっていたと想像されます。カルガモの雛は、だいぶ成長したでしょうが、体が大きくなっても羽が飛べるまでに成長したのでしょうか。この増水で心配です。



2007年度「新河岸川水系 身近な川の一斉調査」

渋谷 瞭司

6月4日、毎年恒例となった「身近な川の一斉調査」が全国一斉に実施され、当会も参加しました。この一斉調査は、新河岸川水系の支流保全に係わる約60団体が、同時に、約270地点での水質や水量等を測定し、同水系の水環境を観測する活動で、今は全国一斉に行われています。

当会では、11名が参加して、源流の大泉井頭公園、日の出橋、中島橋上流、新橋戸橋付近の調査を行いました。

結果は、事務局に送付して、現在、集計が行われています。全体像は、源流まつりの頃に連絡されてくる見込みです。

南小の『白子川学習』で出前授業

菅沢 博

大泉南小学校は、「総合的な学習の時間」として様々な活動をおこなっていますが、そのうち、4年生の白子川学習には、学校からの依頼で当会としてずっと関わってきました。今年は、5月15日火曜日(2クラス2時間)、5月23日水曜日(2クラス2時間)の2回にわたって、白子川について学ぶキッカケ作りをしてきました。(菅沢・本田) 子ども達の学習成果は、10月14日の源流まつりで発表されます。ご期待ください。

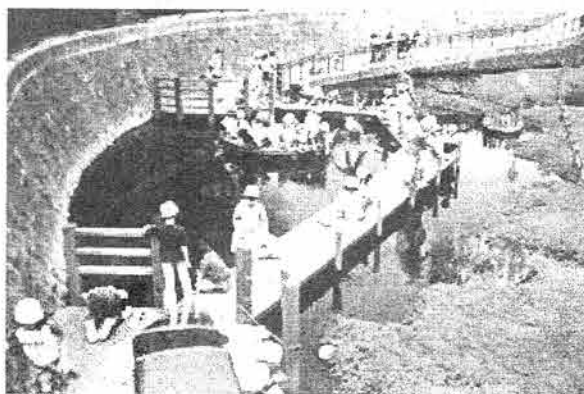


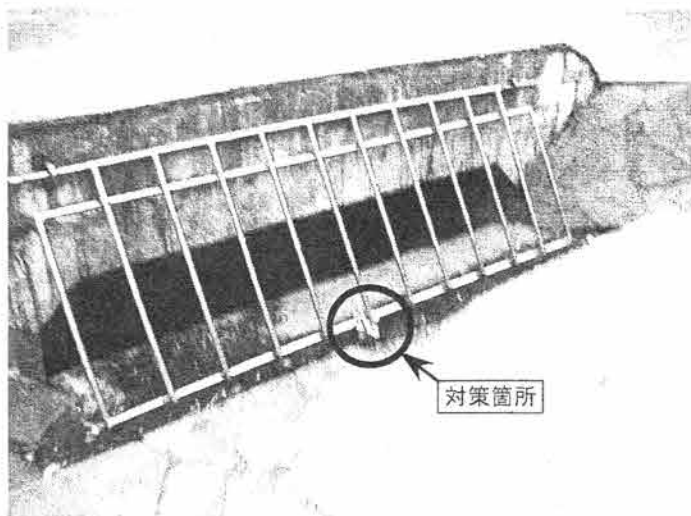
写真:南小ホームページより

区の素早い対策実施の報告

菅沢 博

『…白子川で子どもたちが危ないことしてるよ。』との住民からの情報を聞いたので現地・七福橋下へ降りてみると、こともあろうに!!下水流入口の柵(写真)を開けて中へ入っていることが判明。

大変危険な状態なので、翌日さっそく練馬区へ、対策依頼のFAXを送信したところ、早急に応急対策を実施していただきました。



白子川を知ってもらうために出前講座

菅沢 博

春日町リサイクルセンターで継続的に開催されている環境講座に、7月14日の14時～16時、本田さんと講師をして来ました。

ザリガニ・ホトケドジョウ・源流の水・オオフサモなど、おなじみの“源流の仲間たち”を連れて小学生20人前後を対象に、白子川の源流を説明してきました。これからも、流域以外でも、機会があれば出て行こうと思います。



生協の月刊誌『のんびる』に、当会が紹介されます

菅沢 博

6月の定例活動の際、月刊誌『のんびる』9月号に会の活動を紹介したいと取材がありました。

この『のんびる』（月刊有料購読誌、44p、A4判発行部数2万部）は、パルシステム生活協同組合連合会が、団塊世代を中心とした人たちを対象に

発行する会員情報誌で、「わが里山」コーナー（首都圏で、NPOなど里山の保全に取り組んでいる団体活動を広く紹介するページ）に掲載予定です。

今年も注目!! 「白子川源流まつり」(第7回)

毎年恒例の「白子川源流まつり」開催の準備が進められています。大泉南小学校4年生による「白子川調べ学習」発表、メダカプレゼント、浸透枳、水質検査等のお馴染みのコーナーに、今年は井頭公園周辺の縄文遺跡コーナーが設けられ、資料の展示や説明の他に、縄文時代の「火おこし」や「縄文模様付け」の体験が予定されています。水質検査や顕微鏡による生き物観察などとともに興味深い体験ができることでしょう。

第7回源流まつり
10月14日(日)
12:00 ~ 15:30
大泉井頭公園

お願い!!

毎回、ボーイスカウト練馬17団の絶大なご支援を頂いていますが、地域のみなさんにもぜひとも祭りのスタッフとしてお力添えをいただければと思います。事前打合せ不要の「その場で出来る事」が沢山あります。ご連絡先→3923-8430 菅沢

晴天に恵まれた穏やかな5月13日の日曜日。
めだか飼育教室が、大塚会員(めだか博士)宅の
庭で行われました。

10時からと11時からの2回に分かれ、各10
数人の子供達と父母が参加されました。

時期的に少し早かったため、めだかの卵には
対面出来なかったが、緑の多い広い庭の池や水槽
に浮かべられた“しゅろ”の木の髭に産卵されたギ
ンブナの透明で薄黄色の卵や、別の水槽に移され
たギンブナの赤ちゃんを虫メガネで観察しながら
飼育方法の説明が行われた。

子供達の魚への興味がまた大きく広がりました。



魚をもらったよ!

<めだか飼育のポイント>

- ①5月頃、水槽に卵を産み付ける“しゅろ”等を入
れると、間もなく産卵が行われる。
- ②時々様子を見て、産卵が確認出来たら“しゅ
ろ”ごと別の水槽に移す。
(これをしないと、親に食べられてしまう)
- ③卵は、気温と日数の合計が140になるころに
稚魚になる。
- ④2~3日間は、にわたりのゆで卵の黄身を
ガーゼに包み、少量水槽に溶かしてやる。
多すぎると、余分な黄身が腐って稚魚が死ん
でしまうので、注意するように。
- ⑤以降は、市販の魚の餌を粉末にして少しず
つ与える。量が多いと水が腐って稚魚は死
んでしまう。
- ⑥酸素(空気)の供給は絶やさないこと。
- ⑦水の交換は、水槽の底の方から1/3位を抜き
その分、出来るだけ温度差のないきれいな
水を追加する。
- ⑧水は、最近では、水道水でも良くなっている。
(以前に比べ、カルキ分が減っているため)
- ⑨大腸菌の多い井戸水は使用しないこと。



安藤 桂子

前20号では、鷺田会員の自宅下から、縄文時代の住居跡と石器や土器が出土したことを紹介しました。そして、そこは練馬区教育委員会編集発行の「練馬区の遺跡Ⅱ」によれば、白子川流域の38ヶ所の「石器時代から中世までの遺跡」のうちの「No. 23遺跡(大泉井頭遺跡)」の1部であると示されていました。

「No. 23遺跡(大泉井頭遺跡)」は、現在の住所でいうと、東大泉7-39-17、7-39-22、7-36-13、7-35-31の4箇所で確認されています。「No. 23遺跡(大泉井頭遺跡)」は、縄文時代初期から後半の集落の跡で、縄文中期に最も繁栄したらしいとされています。

江戸時代(文化文政)の妙福寺俯瞰図



鷺田邸の用地から、竪穴式住居跡、かまど跡、土器、等々発掘されています。

この時期のかまどは”埋かめ炉”と呼ばれ、土器を縦に固定して底に近い両脇から火をあてる様式になっています。鷺田邸のかまど跡は、この”埋かめ炉”でした。時代が進むと、土器の底から火をあてるかまどの方式に変わります。

現在の井頭公園付近には、かつて弁天池(井頭池)と呼ばれた池が存在していて、わき水が豊富であったようで、「江戸時代(文化文政)の妙福寺俯瞰図」には井頭池が描かれ、白子川がこの池を基点としているように見えます。

地域観察をすると流域はもっと西に遡ることができ、もともとの水源は田無市谷戸(現、西東京市)あたりと考えられているので、もっと時代を遡る

とまた違った川の様相があったのだと容易に想像することができます。

縄文の時代の川の状態などは想像するしかないのですが、この時代も、豊富な湧水がこの地に池を作っていたであろうと考えられ、大泉井頭遺跡は湧水地周辺の遺跡としてとらえられています。

太古の昔から人は、やはり水辺にほど近いところに集い住まったのだと、白子川ひとつを取って遡っただけでも、水辺の大切さを思い知らされるような気がします。

次回からは、源流まつりに企画している「縄文時代コーナー」に合わせ、鷺田邸用地から出土したものも含めて、縄文時代の道具たちについて、述べていきたいと思います。

4月定例活動報告

本田 純

春の嵐とはいかないまでも、南風強し。
バックテストが飛ばされたりして難儀しましたが、今回初登場の25歳ヤングマンNさんにお手伝いいただき、「アシスタントが欲しい」という私の願いは、今日は叶ったのでした。

水質・水量調査のノウハウを確実に受け継いでいただける方を随時募集中ですし、それが叶えば、動植物の画像採集に本腰を入れられると思います。最近の雨で源流部は満々と水をたたえ、オランダガラシの白い可憐な花が開花。松殿橋下のカラーも満開です。カンガレイも芽吹きが進んでいます。カルガモの抱卵は、もうすぐ始まるのでしょうか。今年もカルガモの赤ちゃんを見られるのでしょうか。皆様からの情報をお待ちします。

4月22日(日) 天 気 曇り

気 温 22.3℃

	最上流	井頭橋下	松殿橋上
流水部水温	19.5	19.3	17.9
湧水口水温	16.6		
電気伝導度	220	230	230
透 視 度	125	125	125
COD	2	2	0
pH	7.5	7.5	6.5
大腸菌群数	9, 12, 71	15, 20, 5	11, 7, 6

火の橋下流量 82.3 リットル/秒

生き物

カンガレイ・アシ芽吹き

オオフサモそれなり

カワモズク見ミられず

火の橋下流

オランダガラシ・カラー開花

セリ・オランダガシラ混じる

カワジシャ、ミズヒマワリ多し

各所でキショウブ伸びる

魚影なし

密かに私は、水質・水量調査のほかに、「水上の動植物の画像データの蓄積」を目論んでおり、いやいやその他にも「水中の動植物の画像データの蓄積」をも目論んでおります。

永井さんの提案にもあるように、小学生を含めた地域住民向けの副読本「白子川紹介書籍」を作りたいと私も思います。それには、水のデータのさらなる集積と解析とともに、生き物の様子を丹念に画像集積して、その中から最善のものを載せたいと思います。インパクトのある画像や生態の把握がまだまだ弱いと思っています。

東久留米のホトケドジョウを守る会が、活動10周年を記念して、小冊子を発刊しました（編集・発行費170万円、単価700円）。目を見張るような画像ばかりです。

写真のプロに任せるのでもなく、私たちの日頃の日線からの活写を集積していく必要があると思います。何を伝えたいのか、私たちの視点からの最善のものを、選りすぐって編集することが必要なのではないのでしょうか。

幸い、「白子川をめぐる人々」の活写は、東谷貞子さんが随分撮ってくださっています。

冊子の編集は、私たちの活動を後世に残す(大げさ)ことですから、私たちのエキスを編まなければ。そのためには、まだまだ弱い部分があると感じています。

6月定例活動報告

本田 純

活動に参加された方々お疲れさまでした。雨がひどくならないで良かったですね。

会員9名参加。南小4年生の先生も来てくれました。それと、生活協同組合連合会の機関誌の取材があり、たくさん写真を撮っていかれましたが、インタビューは雨天のため、後日となりました。

6月24日(第4日曜) 外気温度 24.5℃

	最上流	井頭橋	松殿橋	湧水口
水温	18.7℃	19.1℃	18.1℃	16.9℃
pH	7	7	7	—
EC	200	250	230	
透視度	125以上	82	125以上	
COD	2	4	2	
大腸菌	51, 32, 3	8, 54, 11	8, 58, 55	

火の橋下流量 : 36.4 リットル/秒

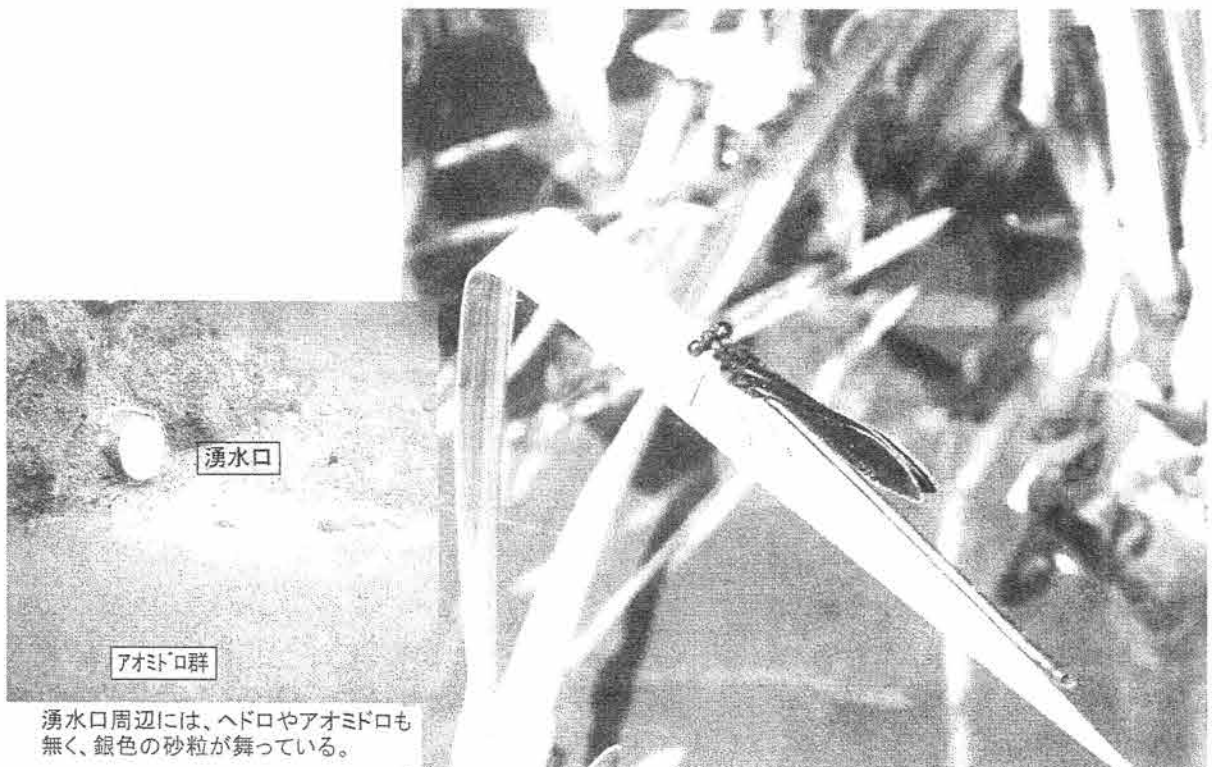
アオミドロが多く、見ようによっては気味悪く、また生物環境にも悪いのでは、と考えるかもしれませんが、アオミドロは、自分の棲息環境が合っていれば、喜んで繁殖しているのです。

アオミドロを、敵視しないでください。

- ・アオミドロは活発に光合成をして、水中・大気中に酸素を供給しています。
- 同時に、井頭堰より上の準閉鎖スペースでは、pHをアルカリ化させます。
- ・アオミドロは、水中動物の繁殖に必要な産卵場、稚魚の成育場にもなっています。
- ・アオミドロは、水が滞留しているところで増殖します。水の流れが常にあるところでは繁殖が抑えられます。完全閉鎖スペースの「水槽」では、すぐにアオミドロが増殖しますよね。

水中撮影によれば、常時水の流れのある日の出橋付近でも、所々でアオミドロの株を見えています。水の流れがあっても、適度にアオミドロの縄張りが確保されるということだと思います。

井頭堰で、最上流を準閉鎖スペースにするため、アオミドロが増殖する。そこは、ホトケドジョウやモツゴやギンブナの世代交代の場所になっている。



湧水口周辺には、ヘドロやアオミドロも無く、銀色の砂粒が舞っている。

7月定例活動

本田 純

にぎやかな定例活動になりましたね。

初めて「HPを見て参加しました。小泉牧場の近くに住んでいます」というSさんの参加は嬉しかったです。じわじわと、会報やまつり以外の、もう一つの発信力を我が会は、つけているかなと思います。

それに代わって、「チームGOGO」の方々が来てくださり、にぎやかになりました。

7月22日(第4日曜) 気温 26.2℃

	最上流	井頭橋	松殿橋
水温	17.9℃	18.1℃	17.9℃
EC	210	240	210
透視度	125mm超	125mm超	125mm超
pH	6.5	6.5	6.5
COD	2	2	2
大腸菌群	42, 34, 37	78, 51, 96	58, 82, 47

火の橋下流量：154リットル/秒

また、今野さん、佐藤さんという近所の女性が「なかなか参加できないけれど、総会に出て、改めて鉢巻きを締め直した」という風な方々の参加が嬉しかったです。それが一番嬉しかった。

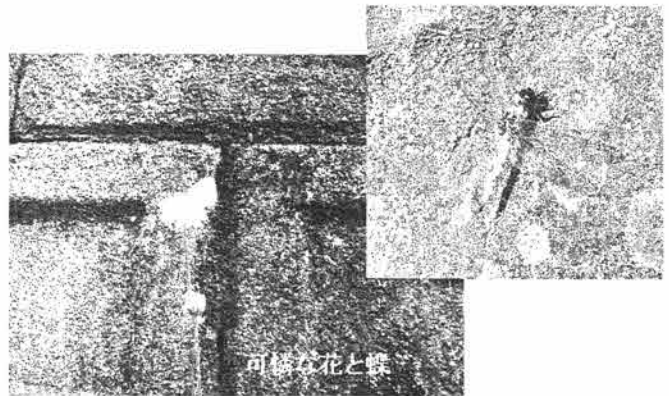
長年の会員の高橋典さんが、活動日を「第三日曜日」と間違えて終わる頃にフラッと現れ、菅沢代表から、罰でビールを買いに行かされていた。そのビールがおいしかったです。

大腸菌の数値が高いので、これから下水の流入がなかったか調べてみます。といっても、練馬アメダスの数値しか知りませんが。

これからの季節、水生植物が隆盛になり、それにつられて昆虫、鳥が集まってきてにぎやかさを増します。幸い今年は、適度な雨量があり、湧き水は湧き続けています。どのような生物が、ここで繁殖するのかを、しかと確かめることができる好機にさしかかっていると思います。



サワガニ



可憐な花と蝶



湧水口(川底)



カワモズク

「タイリクバラタナゴ」でした

菅沢 博

5/27、源流部で見たことも無い“タナゴ”のような魚を捕獲。さっそく、自然保護活動している印西市の仲間（阿部さん、江澤さん）に調査依頼したところ、「タイリクバラタナゴにまちがいない」との判定をもらいました。捕獲した時私は、千葉の多古町という田舎で子どもの頃に捕ったタナゴとの“出会い”でしたから、とても感激しましたが、仲間からの以下のコメントによって冷静になってきました。

送信された写真を確認しました。

タイリクバラタナゴで間違いはないでしょう。

最近では、単に“タナゴ”と言うと、タイリクバラタナゴの事を指すことが多いようです。

同 定 コイ科 タナゴ亜科 タイリクバラタナゴ（移入種）

◆見分けのポイント

成魚は、全長7センチ位。体高が高くなり、腹びれの全縁が白い。なお雄は成熟すると追星が現れ婚姻色を帯び、大変綺麗になる。

幼魚は、背びれに黒点あり。なお、成魚メスも背びれに黒点あり。

※大きさが分かりませんが、背びれに黒点があるので、幼魚と思われます。国内のあらゆるところで分布が広がっている種です。

因みに、印西(千葉県)でも沢山見られ、釣り人が年中来ています。もっとも、釣り人は、この

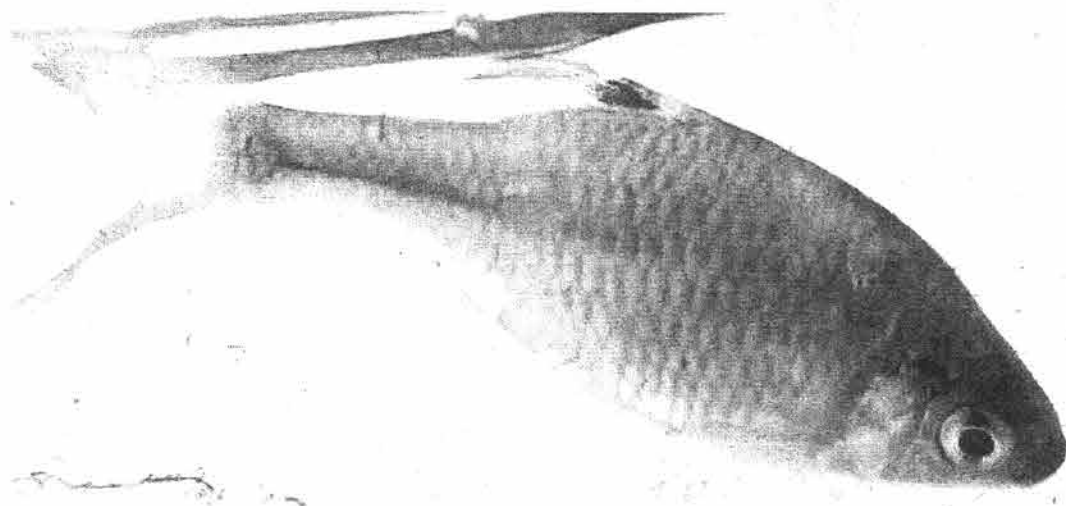
種ではなくヤリタナゴやカマツカなど、珍しい種のタナゴを狙っているようです。

※この種とすれば、直接放流したか、卵が産み付けられた貝（ドブガイなど）を放流したものが増えたのでしょうか。釣り人が、釣りのために放したか、家で観賞用に飼っていたものを放したものでしょう。

※保全活動を始めてから初確認であれば、元々極僅かに棲息していた物が環境の回復によって捕獲される程度に増えてきたと言う事も考えられるのではないのでしょうか？

※印旛沼周辺の一時はタナゴが姿を消していた水路も、“野菜いかだ”なる物を浮かべる事により、タナゴが確認されるようになったという報告も聞いております。

※繁殖力旺盛なタナゴで、在来種を駆逐して棲息範囲を拡大した外来魚ですが、今となっては、この魚が棲む環境（ブラックバスに牛耳られていなくて、二枚貝が生存できる条件が整っている環境）は貴重だと思います。





さんぽみち



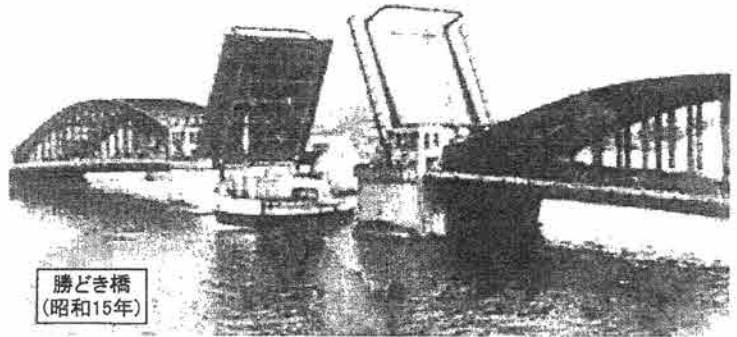
隅田川の3橋が国の重要文化財に

——「永代橋」「清洲橋」「勝鬨橋」——

萩原 和雄

「永代橋」(えいたいばし)は、水路の帝都門として大正15年に、隅田川の第一橋梁として建造された。筋骨隆々とした男性美を思わせる豪壮雄大なデザインの橋です。

「清洲橋」(きよすばし)は、隅田川の第二橋梁でデザインがなかなか決まらず昭和3年に建造された。橋のデザインは、当時世界の美橋といわれたケルンの吊り橋をモデルに作られた架橋で当時から女性的な橋といわれた。



昭和5年、東京市議会四度目の正直で可決設計され昭和15年に完成、わが国最初の二葉(ふたば)の跳開橋で、しかも東洋一の規模を誇った。二葉というのは二つの橋桁をさす。重い動く橋桁を軽やかな葉にたとえた表現である。電気系統が故障した場合、橋は手動でも開けることが出来、しかもある角度まで開くと、あとはアンカーの自重で自然に開く。しかし、交通渋滞を引きおこすという理由から昭和45年以来、開かずの橋となった。

「勝鬨橋」(かちどきばし)は、隅田川の永代橋の下流に架設された。東京オリンピックと万博のイベントのため、当時のハイテク技術の粋を集めた橋であり、万博会場の入り口を飾るはずだったが、これらのイベントは日中戦争が激しくなったため中止、橋だけが残った。橋の架橋地に勝鬨の渡しがあることから橋の名となった。この橋は昭

ギンヤンマ

鈴木 一彦

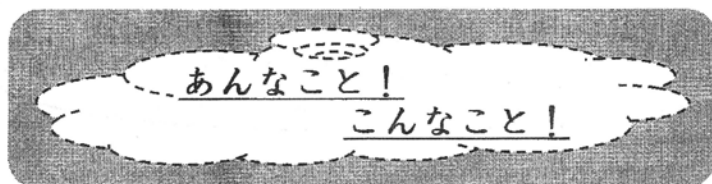
白子川に今年もギンヤンマが飛んでいました。6月21日16時頃、白子川源流部にギンヤンマが1匹(正しくは1頭と言うらしい)飛んでいました。雄で少し小さく見え源流部を旋回してました。

毎年見ますが、雌雄で連結しているものや、それぞれが時間差があって飛んでいるのも見たことが無く、雄のみばかりを見たように思います。何処かで雌雄が出合ってペアとなり子孫が生まれ

ていると思われます。

数年前にはオニヤンマが飛んでいましたが、白子川源流部がトンボの生殖地に適しているのかもと期待してます。

そのためには、夏季に白子川源流部が干上がらないよう願ってます。



川沿いの道に、愛称を付けませんか！

H.S

源流沿いの道路3本に愛称を付けたいと思っています。

その1 ・ ・ 大二小前から七福橋を通過して「井頭」信号までの通りを『七福橋通り』

その2 ・ ・ 井頭公園から左岸(川の西側)、緑橋までを『源流西通り』

その3 ・ ・ 井頭公園から右岸(川の東側)、緑橋までを『源流東通り』

別に深い理由は無いのですが、なんだかいいじゃないですか。

もっといいネーミングもあるでしょう。みなさんの声をお聞かせください。

●百鬼夜行

菅沢 博

春のある朝、猫の額ほどの我家の庭に出てみたら、顔にパアッとかかるほどの水しぶきを残して、鳥が飛び去った。

たぶん、シジュウカラかメジロの群れ。

たまたま、前日、南大泉4丁目のKさんがくれた瓶が水不足だったので、たっぷり補給したばかり。

たぶん、それを知った鳥たちの「横の連絡」で『水があるぞ!』と知った鳥たちが、夜明けからワイワイ飲んでいたらしい。

人がうつつを抜かしているうちに、自然界はそっと「自分している」可笑しさ。したたかさ。

鳥達にとってはなんでもないことなのに、人と鳥との、僅かな時間のめぐり合わせで、自分の知らなかった世界を体験させてくれた鳥たちに感謝。

* * *

おそらく毎夜毎夜、白子川源流では、そんな事が繰り返されているのでしょう。

ゴイサギやコサギ、ヘビやザリガニ、ギンブナやモツゴ、カルガモやホトケドジョウなどが我が物顔で「宴会」しているにちがいないと思うと、妙な親しさを感じないわけにはいきません。

時事川柳

エコロー口(池野)

◆ 日系ケルト人に

里山の保護 教えられ

◆ ハコモノより

今ある緑 守ってよ

◆ 八の釜も二中の桜並木も

“景観”に 選ばれず

◆ 帝王の豪華な宝物展、

支えた人民の労苦と涙しのばれる

(ロシア秘宝展より)

この魚群は何と言う魚だろう！

渋谷 瞭司

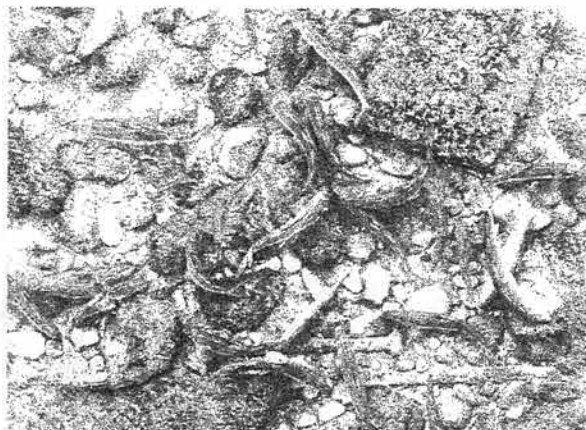
7月中頃から、各所で「あゆに似た魚の群舞」が目撃され、東埼橋下の大きな落差を思い、不思議な現象として話題となっていました。前田橋あたりで、更に外山橋から上流でも目撃されました。

他に、問い合わせメールを1通紹介します。

(渋井 良郎会員より)

何と云う魚でしょうか、15センチ位約20匹銀輪を翻していました。

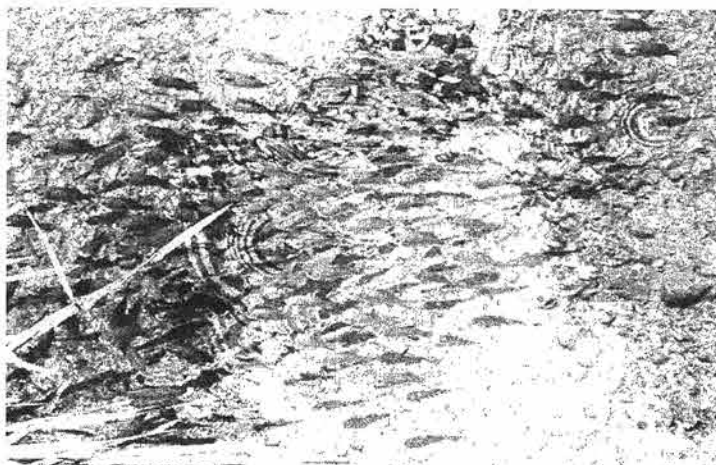
- 7/27 (金)18:30 他に亀とザリガニ各1匹、
7/30 (月) 9:30 発見出来ず 豪雨のせいかな？
7/31 (火)14:30 魚発見出来ず、マッカチン(ザリガニ)10匹位
悠々散歩。
15:00 魚発見 嬉しく思う。



(本田さん撮影の魚の群)

橋の下段差の下流 路上より観る。魚種の確認方法は如何に？

そこで、本田さんは疑問解決のために、8月3、4日に上流を回って群れをカメラに収めました。その道すがら、謎の白髪X氏が現れ、顛末を話してくれたそうです。



(小松さん撮影の魚の群れ)

そのX氏によれば、

- ・4年前から黒目、柳瀬川に鮎釣りに行っては大きいのは食し、小さいものを放流してきた。
- ・今年も四月からちよくちよく放流し、全部で4~500尾位にはなっただろう。
- ・下水の大量流入にも関わらず、残っている。
- ・鮎の群れを見て、少しでも住民の関心が集まれば良いと思っている。-- とのことでした。

これで謎は、あっけなく解けたのでした！！

本田副代表曰く、

「X氏、川沿に住んでいるらしく、見ているとすぐ現れまこうなると俄然、東埼橋(白子川下流・和光市白子2丁にかかっている橋)の下の大きな落差のところで、魚道設置して欲しい希望が膨らみます。」

トキワツユクサ

横山 松栄

火の橋上流付近に群生するツユクサ科の常緑草木。
昭和初期に南アフリカから持ち込まれた帰化植物。
ムラサキツユクサは花びらが2枚であるが、この
種は花びらが3枚からなる。

「野原たからぐさ」という別称がある。



編集後記

会員が日頃何を考え何をしようとするかを、会報ご愛読の皆さんに知って頂ければ会話のきっかけになるのではと、会の行事や活動報告は出来るだけ詳しく掲載してみました。ところが、手段として、改めて原稿依頼せず日頃のメールをベースに編集したため、日頃メールを見ている会員等には重複した結果になってしまったようだ。今一つ工夫が必要と、無い頭を絞ってみるつもりです。

前号でもお願いしましたが、「さんぼみち」や「あんなこと！こんなこと！」コーナーへの皆さまからのご寄稿お待ちしております。

観測史上の最高気温が連日書き換えられ、昼も夜も正に酷暑の毎日です。公園の木の根元には無数の穴が開き、蝉はやたらと騒ぎまくる。北極の氷は、予想より30年も早いペースで消えているという。地球温暖化が猛スピードで進んでいるようです。酷暑も峠を越えたようですが、暑さ対策等お体を大切に！！

10月14日は、みんなで「源流まつり」を楽しみましょう！！

(渋谷)